

# 小学校プログラミング教育実施レポート

学習活動名	理科「水よう液の性質」
学年	小学校第6学年
目標	条件分岐等のプログラミング的思考により、水よう液を分類するプログラムを作成することを通して、水よう液の性質についての理解を深めることができる。
教材タイプ	C Sアンプラグド
使用教材	教科書、ノート
環境	掲示用シート、グループ別作業用セット（1グループ1セット）、ワークシート（1人1枚）
都道府県	鳥取県
実施校	鳥取市立美保小学校
学習活動の概要・ 児童の様子	<p>1 本時の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フローチャートを活用して、6つの水よう液を分類しよう。</li> </ul> <p>2 学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例をもとに、「処理」や「条件分岐」の考え方を確認し、本時の学習について見通しをもつ。（全体）</li> <li>・グループで話し合いながらフローチャートを作成する。（グループ）</li> <li>・確認とまとめをする。（全体）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;児童の様子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動の際、児童全員が身をのり出して意欲的に取り組む姿が見られた。</li> <li>・正解が1つではないことに驚くとともに、1つの条件で1つの水よう液を分類していくよさに気が付くことができた。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返る。（個人）</li> </ul>
成果と課題	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の適切な準備や手立てにより、児童が自分たちの考えを容易に可視化することができた。そのため、グループ内の話し合いが活発になり、試行錯誤しながら全グループがフローチャートを完成させることができた。問題を解決するには、順序があり、条件分岐で分類をしていくよさを感じることができた。</li> <li>・自ら教科書等を用いて確認したりグループ内で話合ったりしながら、水よう液の性質についての理解を深めることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「処理」や「条件分岐」の考え方を確認する時間を減らすことで、児童の活動時間の確保ができると考えられる。</li> <li>・今後はコンピュータを用いたプログラミング教育にも取り組んでいく。</li> </ul>

